

UAE 連邦政府環境庁主催 World Water Day のコンテスト

去る 3 月 22 日に表題のとおりオープンコンテストが実施されました。作品の募集は 1 月 28 日に新聞で公示され、その募集内容は節水、適正な水利用及び水質汚染防止の 3 分野に関わる発明ないしは技術の開発となっていました。我が JICA 専門家チームも露塚を出品してみました。露塚は決して新しい技術ではないし、広く知られているものですが、試作品の形で試験研究が行われた例は数えるほどしかありません。古くは紀元前 4 千年のジェリコの住民にさかのぼり、近くは米陸軍サバイバルマニュアル、あるいは 70 年代初頭のイスラエルのヘブライ大学の研究、あるいは 95 年の鳥取大学での研究がある程度だと思えます。

出品した露塚は下図のようないわゆる閉鎖系のもので、いわば太陽熱利用の蒸留水製造器とでも言った方が分かりやすいかもしれません。

さて、例年 World Water Day の時には大学でも他の官公庁でも水にちなんだ各々の活動を展示出品するのが通例でしたが、今年からはそれが行われず、人々の水問題への認識を高めることを目指して環境庁主催で初めてオープンコンペを実施することになったわけです。結果は、驚いたことに我々の作品が 1 等賞を獲得しました。しかし、正直なところ複雑な気持ちです。と言うのも農学部側には露塚に関心を持ってくれる人がわずかしかないのに反し、理学部や水・電力省など、農の字とは無縁の所の人々が関心を持っているからです。途上国の農村の鍛冶屋さんでも簡単につくれるようなものを目指してきたのですが、水問題に無関心とさえ映るアブダビの農地や地下水資源の乱開発をはためけで心配しつつ、昨今の Environmentally conscious な人々の関心を引きつけたことに喜んでいいやら、若き(?) ウエルテルの悩みはますます深くなっていくのでした。

(在 UAE、東海林)

